

環境たまき

信州環境パートナーシップだより

vol.

90



平成30年度環境保全に関するポスターコンクール
 松本県ヶ丘高等学校2年 長瀬 桜乃さん
 高校生の部 最優秀作品



- ★体験と学びの環境博～信州環境フェア2019～が開催されました
- ★自然保護活動等功労者知事表彰・循環型社会形成推進功労者知事表彰の表彰式が執り行われました
- ★キッズーSO14000プログラム エコインストラクターによる講習会が行われました(白馬村立白馬北小学校)
- ★エコロジ―掲示板
- 信州環境カレッジ 自然ふれあい講座「みんなで温暖化ウオッチーセミナーの抜け殻を探せ！」が開催されました

体験と学びの環境博～信州環境フェア2019～が開催されました

7月27日(土)・28日(日)の2日間、長野市若里のビッグハットにおいて、『体験と学びの環境博～信州環境フェア2019～』が開催されました。多くの企業・団体・学校等が出展を行い、約6,200人の県民のみなさんが来場しました。昨年に引き続き、「環境」を含めた「SDGs(持続可能な開発目標)」をテーマにイベントを開催し、メインステージでは「信州環境カレッジ×よしもと×JICA」によるSDGsトークショーなどが行われました。会場内では、環境保全に関するポスターや上越市立水族博物館「うみがたり」の出張水族館などの展示がありました。



環境保全に関するポスター展示
 平成30年度の入賞・入選作品を全作品展示しました。



信州環境カレッジ×よしもと×JICA SDGs トークショー
 吉本芸人と一緒に、JICAの方からSDGsを楽しく学べるトークショーが開催されました。最後には、SDGsに関するクイズ大会がありました。



上越市立水族博物館「うみがたり」出張水族館
 移動水族館のほか、海の生きものとのふれあいコーナーがあり、海の豊かさと大切さを体感できました。



プラスチックごみ削減に向けて
 長野県資源循環推進課のブースでは、プラスチックごみ削減の取組が紹介されました。また、海洋プラスチックに関するパネル展示も行いました。

※誌面の都合により「環境キーワード解説」はお休みしました。

自然保護活動等功労者知事表彰・循環型社会形成推進功労者知事表彰の表彰式が執り行われました

環境保全活動等に功績のあった方々への表彰式が「体験と学びの環境博～信州環境フェア 2019～」の中で執り行われ、高田真由美長野県環境部長より賞状が授与されました。



【自然保護活動等功労者知事表彰】

長野県の自然環境及び生物多様性を保全し、豊かな自然環境を後世につなげることについて、多大な貢献のあった方々を功労者として表彰しました。今年度の受賞者は以下のとおりです。

部 門	受賞者名	功績概要
長野県自然保護レンジャー	藤 森 聡 美	長野県自然保護レンジャーとして、10年以上活動し、かつ直近5年間において100回以上自然公園等で利用者に対する適切な利用指導及び情報提供などの普及啓発活動に取り組んだ。
	古 畑 正 文	
	岩 澤 茂 夫	
	赤 羽 陽 介	
自然観察インストラクター	横 内 文 人	自然観察インストラクターとして、10年以上活動し、かつ直近5年間で50回以上県内の自然に親しみ、学習する機会を与える活動に取り組んだ。
長野県希少野生動植物保護監視員	垣 内 美 佐 子	長野県希少野生動植物保護監視員として、多年にわたり活動し、かつ直近5年間で50回以上生息地又は生育地の監視指導に取り組んだ。
	垣 内 雄 治	
	小 澤 勝 美	
自然保護施策推進功労者	井 出 靖	長野市自然環境保全推進委員、自然観察インストラクター等を歴任されたほか、ビオトープの再生・保全活動を行っている。
	青 野 哲 士	長野市自然環境保全推進委員として、大岡地区を中心に動植物全般の調査・情報提供に取り組んでいるほか、機関紙にて長野の自然について情報発信を行っている。
	今 西 修	長野市自然環境保全推進委員、自然観察インストラクターとして自然保護活動に取り組んでいるほか、昆虫採集イベント等にて講師も務めている。
	杉 本 淳	長野市自然環境保全推進委員として、動植物全般の調査研究・情報提供を行っているほか、ビオトープ再生や国有林内の野生動植物調査と、森林施業と野生動植物保護の調整活動に取り組んでいる。

【循環型社会形成推進功労者知事表彰】

循環型社会の形成に向け、廃棄物の適正処理及び再利用、資源化等の促進、啓発・普及及び指導・教育等に多大な貢献をされており、他の模範となる方々を功労者として表彰しました。今年度の受賞者は以下のとおりです。



部 門	受賞者名	功績概要
事業者	信濃化学工業株式会社（長野市）	生分解性プラスチック製品を国内で先駆的に製造・販売するなど環境負荷低減のための活動に取り組んだ。
	伊那食品工業株式会社（伊那市）	プラスチック製品の代替となる可食性フィルムを製造・販売するなど環境負荷低減のための活動に取り組んだ。
個人・グループ・学校	上田市立 第二中学校（上田市）	朝の登校時に通学路のごみ拾いを行う「通学路清掃」やアルミ缶等回収で得た収入を福祉施設等へ寄付するなど環境美化だけでなく社会貢献も行った。
	宇 治 賢 治（岡谷市）	多年にわたり地区衛生自治会会長及び市衛生自治会役員として、生活環境向上のための清掃美化の実施等に取り組んだ。

部 門	受賞者名	功績概要
個人・グループ・学校	山 村 幸 夫 (松本市)	多年にわたり町会環境衛生部長として、環境美化のため一日清掃等の活動に率先して取り組んだ。
	久保田 忠 史 (松本市)	多年にわたり町会環境衛生部長として、環境美化のため町会内公園・花壇の整備等に率先して取り組んだ。
	鈴 木 基 夫 (松本市)	多年にわたり町会環境衛生部長として、環境美化のため一日清掃等の活動に率先して取り組んだ。
その他	塩 入 雅 彦 (長野市)	衛生施設組合職員及び市職員として多年にわたりごみ処理、し尿処理業務に携わり、廃棄物の適正処理に尽力した。
	柳 島 和 広 (長野市)	市職員として多年にわたりし尿処理施設や公衆トイレの維持管理業務に携わり、廃棄物の適正処理に尽力した。
	川 口 尚 樹 (須坂市)	市職員として多年にわたり一般廃棄物処理施設における業務のみならず、広く環境衛生行政に携わり、廃棄物の適正処理等に貢献した。
	平 林 悟 (須坂市)	市職員として多年にわたり一般廃棄物不法投棄の監視指導等に携わり、廃棄物の適正処理等に貢献した。

キッズISO14000プログラム エコインストラクターによる講習会が行われました

信州豊かな環境づくり県民会議では、環境教育の一環として、企業・学校・NPOと連携し、小・中学生が省エネに取り組む「キッズ ISO 14000 プログラム」の普及を平成 20 年度から進めています。子どもたちは、夏休みを利用して、家庭内で PDCA サイクルにより省エネやごみの削減に挑戦します。

7月17日(水)、キッズISO14000プログラムエコインストラクターによる講習会が、参加校である白馬村立白馬北小学校で行われました。子どもたちは、インストラクターの話を熱心に聞きながら、電気メータの見方、ごみの重さの量り方、記録の方法などを学んでいました。また、インストラクターへの質問も積極的に行われ、「スキーの練習のために夏休みは長期間海外に行くので、その間の記録はどうしたらよいか。」「自宅が旅館をやっているが、海外からのお客さんにどうやってごみを少なくすることを伝えたらいいか。」など、冬季スポーツと観光が特色である白馬村らしい質問が飛び交いました。



令和元年度の参加校

軽井沢町立軽井沢中部小学校・白馬村立白馬北小学校・文化学園長野中学校

キッズ ISO14000 プログラムの詳細については下記のホームページをご覧ください。

特定非営利法人 国際芸術技術協力機構 <http://artech.or.jp/kids>

キッズ ISO14000 プログラムは協賛企業の皆様により支えられています。

株式会社北山商事 キッセイ薬品工業株式会社 KOA 株式会社 株式会社G・フレンドリー
 株式会社ジェルモ 株式会社信州ウエイスト 医療法人仁雄会穂高病院 第一商工株式会社
 宝資源開発株式会社 多摩川精機株式会社 中央アルプス観光株式会社 TPR 株式会社長野工場
 直富商事株式会社 一般社団法人長野県自動車販売店協会 株式会社中嶋製作所
 株式会社南信サービス 株式会社八十二銀行 マルヤス機械株式会社 (五十音順、敬称略)

信州環境カレッジ 自然ふれあい講座
「みんなで温暖化ウオッチ～セミの抜け殻を探せ!～」が開催されました

長野県環境保全研究所では、毎年8月上旬に県内6箇所で開催して地域の子どもたちと一緒にセミの抜け殻を通じて環境の変化について学習する講座（自然ふれあい講座）を開催しており、今年で8年目になります。

講座は、スタッフがセミの生態解説を交えながらセミの抜け殻の採集と分類をサポートする形で行いました（写真1）。子どもたちは夢中でセミの抜け殻を探し、木の高いところについた抜け殻まで見つけては、スタッフに長い棒や網で落としてもらってたくさんの抜け殻を集めていました。

子どもたちからは「セミのことがよく分かってよかった」、「楽しかった、来年も参加したい」といった感想をいただきました。また、この講座は信州環境カレッジ「夏休み！こどもエコチャレンジ」に登録していたので、受講証と景品をお渡ししました。



写真1 各会場での講座の様子

この講座は環境教育が主な目的ですが、気候変動がセミに及ぼす影響を調べるための基礎データを蓄積することを念頭において実施しています。たとえば、図1は上田市で得られたデータです。ミンミンゼミの割合が増加、ニイニゼミとアブラゼミの割合が減少しているように見えますが、このような変化の特徴は会場毎に異なっていて、たった8年のデータでは数十年規模で進行する気候変動との関係を考察することはできません。しかし、図2のように気象要素とセミの抜け殻数の関係を探ることはできますし、データが蓄積されれば統計的な解析もできるようになります。

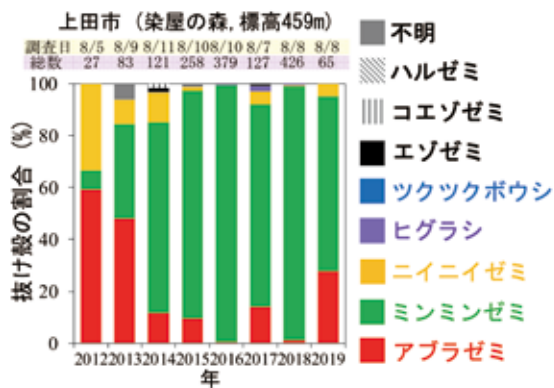


図1 2012～2019年に上田市で採集された抜け殻の総数と各種セミの割合

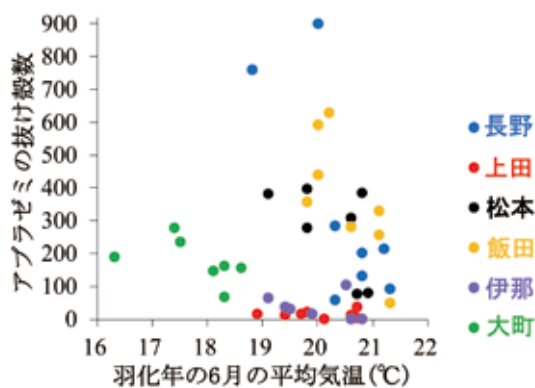


図2 羽化年の6月の平均気温とアブラゼミの抜け殻数の関係

気候変動がセミに及ぼす影響を調べるためには毎年続けていくことが大切です。今回参加した子どもたちが大人になる頃には、長野県でも南方系のクマゼミの抜け殻が見つかるかも知れません。気候変動とセミの関係をもっと詳しく評価できるように、来年度も多くの皆様のご参加をお待ちしています。